

第9期芽室町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より抜粋

1 基本理念

高齢者が慣れ親しんだ地域で暮らすために、お互いに支え合う地域共生社会の実現

2 基本目標

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、医療、介護、介護予防、生活支援、住まいが一体的に提供される「地域包括ケアシステムの深化・推進」について、多様な主体と連携し取り組みを推進します。

(1) 社会とのつながりが可能な心身の健康維持

健康でいるためには、社会参加と心身の健康維持を一体的に進める必要があります。この2つの視点をもって事業を実施します。

① 社会参加

高齢者がいつまでも健康でいるための社会参加は、地域包括ケアシステムを構成する「介護予防」の要素も踏まえ、次の取り組みを推進します。

社会参加の場の提供や家庭訪問等の取り組みを通して社会とのつながりを推進するとともに、地域住民による活動を含め介護予防事業の充実し、高齢者の社会参加を通じた健康寿命の延伸を目指します。

ア 住民主体の通いの場^{※1}の継続

- ・通いの場へ医療専門職の関与

イ 町の介護予防事業の充実

- ・介護予防事業等の社会参加の場の提供

ウ 住民主体の通いの場と町の介護予防事業の連携

- ・通いの場をやめた方に、次の社会参加の場を紹介

エ 高齢者に社会参加を促す働きかけ

- ・家庭訪問等で実施

※1 住民主体の通いの場…住民が主催する運動や趣味のグループ活動

② 心身の健康の維持

高齢者の心身の健康の維持は、地域包括ケアシステムを構成する「介護予防」や「医療」の要素を踏まえ、次の取り組みを推進します。

健康状態不明者の実態把握や疾病の早期発見等による医療との連携を更に強化して健康の維持増進と重症化を予防するとともに、必要な支援が届いていない方の実態を把握し社会資源に結び付けることにより、高齢者の心身の健康の維持を目指します。

また、医療と介護をつなぐ公立芽室病院は、地域包括ケアシステムの「医療」における中核としての役割を果たします。

- ア 健診による疾病の早期発見と重症化予防
- イ 家庭訪問を活用した高齢者の実態把握
 - ・家庭訪問の対象を拡大
- ウ 個々に応じた社会資源^{※2}の紹介と支援が届いていない方の早期発見

※2 社会資源…行政によるサービスや介護保険等の公的サービスだけでなく、制度化されていない活動や民間が提供するサービス等

(2) 何らかの支援が必要になっても、今の住まいで暮らせる仕組み

何らかの支援が必要となっても今の住まいで暮らせる仕組み作りのため、地域包括ケアシステムを構成する「生活支援」や「住まい」の要素を踏まえ、次の取組みを推進します。

高齢者の相談窓口である「地域包括支援センター」を中核とした関係機関との連携により、何らかの支援が必要となっても暮らせる取り組みを進めるとともに、認知症の方が暮らしやすい社会を目指す取組みを進めます。

- ① 介護が必要になっても住み続けられる環境づくり
 - ア 高齢者福祉施策の継続
 - イ 住民による支え合いの促進
 - ・住民と住民をつなぐ仕組みの継続
 - ウ 医療や介護保険サービスを円滑に利用できる体制
 - ・入退院時の支援や急に体調を崩したときの対応の検討
 - エ 認知症施策推進計画の策定
 - ・町の認知症に関する実情や国や道の計画策定状況を踏まえ、基本理念や相談・支援体制を盛り込んだ市町村計画を策定します。

(3) 高齢者が安心して暮らすことができる介護サービスの提供

高齢者が安心して暮らすことができる介護サービス提供のため、地域包括ケアシステムを構成する「介護」の要素を踏まえ、次の取組みを推進します。

中長期的な人口動態や介護保険サービスの利用見込み等を適切に捉え、地域の実情に応じた基盤整備の検討と基盤を支える介護人材の確保に向けた取組みを進めます。また、介護保険制度は改正などにより今後も変化が予想されるため、制度の理解を深め、持続可能で健全な介護保険事業の運営を目指します。

① 介護保険サービスの基盤整備

- ア 地域の実情に応じた介護保険サービスの提供体制の整備を検討
- イ 介護保険サービスを安定して提供するための介護人材の確保
- ウ 感染症の蔓延及び災害等を予測した介護保険サービスの内容の検討

② 介護保険事業の健全な運営

- ア 介護給付費適正化事業の実施
- イ あらゆる対象に向けた介護保険事業の普及啓発

第6期芽室町総合計画（案）

基本目標3 誰もが健康で自分らしく笑顔で暮らせるまちづくり

3-1 住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実

3-3-2 高齢者福祉の充実

主管課 高齢者支援課

1 現状と課題

我が国の高齢化は世界に類を見ないスピードで進み、芽室町においても令和7年1月時点、高齢化率は30.6%で、全道の中では179市町村のうち166位（令和7年1月1日現在住民基本台帳人口）に位置していますが、全国と同程度の高齢化率となっています。

芽室町の人口は平成22年をピークに減少していますが、65歳以上の高齢者人口は生産年齢人口が順次老年期に入り、また、平均寿命が延びていることから、令和27年まで増加する見込みです。一方で、社会の支え手とされてきた生産年齢人口（15～64歳）は減少し、少子高齢化・人口減少社会に入っています。

また、健康で活動的、心身ともに自立した暮らしを送る高齢者がいる一方、ひとり暮らし、夫婦のみの高齢者世帯、認知症の方の増加が見込まれるとともに、ひとつの世帯の中で課題が複合化するなど暮らしに対するニーズは拡大・多様化していくものと考えられます。

第10期芽室町高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画には、高齢者が慣れ親しんだ地域で暮らすために、お互いに支え合う地域共生社会の実現を基本理念とし、基本目標に地域包括ケアシステムの深化・推進を掲げ、限りある社会資源を効率的かつ効果的に活用しながら、高齢者が住み慣れた芽室町で長く暮らしていただくため、生活に関わる幅広い取組について、具体的な目標をもって推進するとあります。

「社会とのつながりが可能な心身の健康維持」、「何らかの支援が必要になっても、今の住まいで暮らせる仕組み」、「高齢者が安心して暮らすことができる介護サービスの提供」を柱に、介護が必要になっても住み慣れた地域で生活できるよう介護保険事業を健全に運営します。

2 施策の方針

高齢者の健康づくりや社会参加を推進し、住み慣れた地域で自分らしく安心して生活できるよう適切なサービスを提供します。

対象	高齢者（65歳以上）
意図	社会参加（介護予防）と心身の健康の維持を推進する 介護が必要になっても住み続けられる環境づくりを推進する 介護サービスの充実と適切な提供
結果	高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる

3 施策の主な内容

（1）社会とのつながりが可能な心身の健康維持

- ・健康を維持するためには、社会参加（介護予防）と心身の健康維持（病気の管理など）を一体的に進める必要があることから、この2つの視点をもって事業を実施します。
- ・高齢者の生活の質向上や認知症発症のリスク低減等に向け、補聴器購入助成の検討を進めます。

- ・社会参加の場となる住民主体の通いの場や介護予防事業などを充実し、高齢者へ社会参加の場を提供します。

(2) 何らかの支援が必要になっても、今の住まいで暮らせる仕組み

- ・認知症など何らかの理由で介護が必要になっても、今の住まいで暮らしたいという住民のニーズがある一方で、就労人口の減少で高齢者の生活に必要な細かな支援を行政や介護保険サービス事業者などが提供するの難しくなることから、高齢者福祉施策の継続だけでなく住民による支え合いを進め、**全世代型地域包括ケアシステムに取り組み**、地域共生社会の実現を目指します。

(3) 高齢者が安心して暮らすことができる介護サービスの提供

- ・町民ニーズを踏まえ、住み慣れた地域で生活できるよう介護基盤を確保します。
- ・行政の介護基盤だけではなく、介護人材やそれに関係する協力者を増やし、介護保険に関する様々なサービスを充実させ、利用者にとって真に必要なサービスを提供できる体制を目指します。
- ・高齢者施設利用者の安心・安定した環境提供を図ります。

4 施策の成果指標

成果指標	説明	現状値	目標値 (2030／R12)
①高齢者にとって暮らしやすいまちだと思う割合	住民意識調査	70.7% (R7)	75.0%
②やりがいのある趣味や運動、仕事に取り組んでいる高齢者の割合	住民意識調査	70.9% (R7)	72.0%
③芽室町の福祉サービスに満足している高齢者の割合	住民意識調査	78.6% (R7)	80.0%

5 施策に係る取組（主要な事業など）

取り組み	担当課	方向性	2027 (R9)	2028 (R10)	2029 (R11)	2030 (R12)
社会とのつながりが可能な心身の健康維持（高齢者体力増進教室開催事業・各種健診・健康教育・相談）	高齢者支援課・健康福祉課		実施			
何らかの支援が必要になっても、今の住まいで暮らせる（生活支援体制整備事業・成年後見推進事業・地域包括支援センター運営事業）	高齢者支援課・健康福祉課		実施			
高齢者が安心して暮らすことができる介護サービスの提供（支え合いの町づくり人材育成事業）	高齢者支援課		実施			

6 展望計画（2031（令和13）年度～2034（令和16）年度の展望）

- ・切れ目のない介護予防と社会参加の推進による健康寿命の延伸
- ・全世代型地域包括ケアシステムによる地域共生社会の実現
- ・介護人材の持続的確保と介護DXの本格展開